

編集後記

◆ きれいな景色を見ると人は感動します。きれいな石を見ると、感動する人もいます。やや少数派であることは否めませんが、その感動は素直に共有したいと思います。しかも、それが地球全体の歴史の3分の2ほどを生き続けてきたものであれば、彼・彼女から話を聞いてみたいと思うのもまた素直な心でしょう。あの頃は酸素が少なくて、とか、いや、今と比べてそんなに変わらなかったよ、などと教えてくれるのでしょうか。身にまとうものも、継ぎはぎルックもあれば、斬新的な模様もあり、現在の服飾デザイナー達に、こっそりそのまま教えても良いくらいです。西オーストラリアの古い岩石の地学的な解釈は、カラー写真と本文に記されています。

◆ 編者は40年近く前に、夏目漱石の坑夫という小説を読みました。その文章からは何とも不思議な鉱山の情景、人々の風体が思い浮かばされ、かくて足尾銅山に見学に出かけることにしました。明治時代ではありませんから、そこには明るい鉱山都市がありました。天気が良かった夏休み中であつたせいかもしれません。結局、漱石がその小説で何を言いたかったのかは、わからないままでした。その後、谷中村の存在の話などを聞くこととなります。翌年の夏休みには日立鉱山に行きました。有害な煙を高空から放出させるために造られた延々と山肌を登る通路と、その先端の尾根上にそびえ立つ大煙突が印象的でした。足尾では煙害が出たけれども、日立では出なかったと、よくたとえ話に引用される施設

です。その時に、よほど感動したとみえて、その煙突の姿を版画にしました。今では、鉱山は閉山し、煙突も1993年に上部3分の2が倒壊しました。版画なんてどこへ行ったやら。

◆ その後、別な鉱山を見学したときには、その鉱山は鉱害問題で訴訟を起こされ、裁判が進行中でした。説明してくれた鉱山の地質の責任者の方は、鉱床そのものの地学的な説明だけでなく、裁判中の問題についても敢えて触れてくれました。もちろん被告となった会社側に罪のないことを示すデータが示されました。見学者達に意見を述べる機会も与えられました。しかし議論はあまりかみ合いませんでした。裁判の結果、会社側は負けました。鉱山会社、政府関係機関、大学など、様々な機関に属する地質関係者が、本来もう少し知恵を出し合うべきことであつたのかもしれませんが、昔の話です。

◆ 地質図をより多くの人に、より有効に利用してもらうために様々な方策がとられています。地質は国境を選びません。ましてや図画など全く意に介しません。それらをどう克服して地質の表現をするかの苦労話が、国際的視野に立って述べられています。今月号にはオーストラリアの記事が3件も集まりました。感じ方も表現の仕方も3者3様で、地球科学の幅の広さが感じられました。

◆ 東北ってだいぶ楽しそうなところのようですよ。御出かけの際にはぜひ本誌を参考にして下さい。一人で旅するか、そうでないか、そんなことは当方は一切関知しません。(須藤 茂)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤 茂  
副委員長：谷田部信郎  
委員：高木哲一・関口春子・中島 隆・  
安川香澄・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館  
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1  
Tel. 029-861-3754  
Fax. 029-861-3569

地質ニュース	第588号	2003年	8月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748)	〒実費	
2003年8月1日 発行	編集		
発行人	産業技術総合研究所 株式会社 実業公報社		
発行者	代表者 林 光生 株式会社 実業公報社 東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073 Tel. (03) 3265-0951 Fax. (03) 3265-0952 E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp 振替口座 00110-6-32466 麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2003 Geological Survey of Japan  
●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター  
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。  
また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ